

# 歴史を秘めた 新田の湧水地



太田市

## ● はじめに ●



日本の各地に名水といわれる湧き水があります。その多くは、地元の人たちの飲み水や生活用水として利用されてきました。これらの共通点は、降水がいったん地下に浸透してから、長い時間をかけ地上に湧き出したり汲み上げられた水です。水温が低く、不快な汚濁物を含まない良好な水質を保っています。

太田市内には、国内でも有数の規模をほこる大間々扇状地に涵養された地下水が湧き出る新田湧水群があります。畑や水田の中、住宅の庭、寺社などから地下水が湧き出しており、一級河川の起点となっている湧水地もあります。水温は周年一定しており、現在も貴重な灌漑用水として利用されています。

しかし戦後の開発による土地利用の変遷や農業用水、工業用水の地下水くみ上げなどにより湧出量が減少し、近年、窒素成分による汚濁もみられるようになり、日常的な管理や関心が薄れ、長い間放置されてしまった湧水地も現れ始めてきました。

このような湧水をとりにくく環境の悪化が懸念されるなか、市民の中から湧水地の保全活動を実践する市民団体が発足し、地域や関係団体と協力しながら活動を続け、ガイドブック発刊にも中心的に係わっていただきました。

このガイドブックが身近な自然の恵みを再発見し、多くの市民の保全活動がひろがることを期待します。

平成20年 3月

太田市長

清澤聖義

# ● 目 次 ●

## はじめに

|          |   |
|----------|---|
| 湧水に関する歴史 | 1 |
|----------|---|

## 湧水地

|        |       |    |
|--------|-------|----|
| ①矢太神沼  | ②千五郎池 | 2  |
| ③重殿    |       | 3  |
| ④団蔵坊   | ⑤風吹沼  | 4  |
| ⑥美濃谷戸沼 | ⑦妙参寺沼 | 5  |
| ⑧一の字池  | ⑨通木   | 6  |
| ⑩谷地池   | ⑪ドブゼキ | 7  |
| ⑫反町館   | ⑬羅釜   | 8  |
| ⑭ミタラセ  | ⑮三角池  | 9  |
| ⑯清水    | ⑰裏沼   | 10 |
| ⑱江田の池  | ⑲天沼下沼 | 11 |

|           |    |
|-----------|----|
| 大間々扇状地の地形 | 12 |
|-----------|----|

|                    |    |
|--------------------|----|
| 湧水のしくみ・代表的湧水の水質データ | 13 |
|--------------------|----|

|             |    |
|-------------|----|
| 新田地域の湧水地タイプ | 14 |
|-------------|----|

|                |    |
|----------------|----|
| 新田湧水群の湧水タイプ区分例 | 15 |
|----------------|----|

|        |    |
|--------|----|
| 湧水地マップ | 17 |
|--------|----|

## ● 湧水に関する歴史 ●

太田市新田地域に存在する湧水地は、過去の長いトンネルを通り抜け、私たちに授けられた掛け替えのない水の贈りものです。

この神秘をたたえた湧水地は、約5万年前から約1万3千年前、旧渡良瀬川が大間々付近から南の方向へ流れていた頃、川の移動により扇の形をした平坦な地形を造りました。これが「大間々扇状地」で、湧水地はその成り立ちに起因しています。

大間々扇状地を構成する堆積物は、粒の粗い砂礫の層でできています。このため地表に降った雨水などが浸透し、伏流水として地下を流れることになります。この地下水は砂礫層が薄くなる扇状地南端部、標高55～60メートル付近であちこちに湧出し「新田地域の湧水群」として、今も目にすることができます。

この恵まれた水環境は、自然界では生物・植物に豊かな繁殖をもたらすとともに、各湧水地周辺とそこを起点とする「石田川・大川」などの流域では、多くの遺跡が分布し、古代には豊富な水を背景に稲作が盛んになり、集落が拡大しました。

中世になると、新田氏により水田開削が進み、湧水地はなくてはならない取水施設となって、後の新田荘成立に大きな役割を果たしました。なかでも、重殿水源・矢太神水源は当時の水利関連の遺跡として国指定史跡になっています。

このように、水田耕作も自然を相手の時代が長く続きましたが、取水施設が整う近年まで湧水地を必要としました。

また、自噴現象が垣間見られる湧出地点は「矢太神・ミタラセ」などの名が示すように、自然の不思議さに拠り所を求めた人々の、祈りの場でもあったと思われます。

これら、さまざまな時代を経た歴史の中で、私たちに直接、間接にいのちに繋がる恩恵を与え続けてくれた湧水地も、自然環境の変化や人為的影響で湧出量が減少し、水利的な役割を終えることとなりました。

そして今、自然環境の大切さが見直される中、湧水地は水辺のある原風景や教育の場所として、再び必要性が高くなりつつあります。